



神田外語大の浜風祭で福島をPRする柴田ゼミの学生

## 大学祭で「今」をPR

神田外語大 本県応援ブース設置

神田外語大(千葉市)の学生は25日、学内で催された大学祭「浜風祭」で福島復興応援ブース「よってがっしょ福島」を設けた。学生が自分たちで仕入れた県産品を店頭並べて売ったり、来場者に観光パンフレットを手渡

したりしながら福島をPRした。浜風祭は26日まで。  
 グローバル・リベラルアーツ学部の柴田真一特任教授(66)のゼミ生20人が喜多方ラーメン、ゆべしなどの菓子、桃ジュース、赤べこキーホルダーなど約30品

を並べた。手作りのおみくじもあり、来場者に好評だった。首都圏などに生活の拠点を移した県内出身者と本県をつなぐ福島民報社の「ふくしまドアプロジェクト」の会員を募るチラシも手渡した。ブースリーダーの関口舜矢さん(21)は「自分たちと同じ世代に魅力を伝え、福島に心を寄せてもらいたい」と話した。

柴田ゼミの学生は、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の発生から15年を前に「福島の今」を国内外に発信し、多くの人に福島を知ってもらおうとプロジェクトを立ち上げた。今年8月には双葉郡を取材し、日本語版と英語版の震災復興新聞を作った。